

第10回 鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会 議事録（概要）

日時 平成27年2月3日（火）14時00分～16時00分

場所 鎌倉市役所 第4分庁舎 822会議室

出席 深野会長、浅川委員、久保田委員、大道委員、奴田委員、保坂委員、牧田委員
＜事務局＞

環境部 石井部長、植地次長、小池次長、川村次長

資源循環課 内海担当課長、谷川担当課長、佐藤担当係長、吉田担当係長、
安倍職員、大谷職員、古賀職員

環境施設課 遠藤課長

環境センター 杉田担当課長、佐藤担当課長

ごみ減量・資源化推進担当 谷田担当課長補佐、大高職員

傍聴者 6名

会議の前に第9回審議会の議事録の内容について了承され、公開とすることが確認されました。

議題 1 第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画について

報告事項 1 有料化等について

2 鎌倉市ごみ焼却施設基本計画の進捗状況について

その他 1 次回の当審議会の開催日程等について

議題 1 第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画について

事務局からごみ減量・リサイクルに関する市民アンケート結果概要、事業所アンケート結果概要、若年層対象ワークショップ結果概要等について説明した後、審議を行った。

深野会長：事務局から説明がありましたが、非常に有益な資料であると思います。施策に意見や感想を反映させる等、この資料の内容は後々まで活かせるのではないのでしょうか。アンケート、ワークショップともに、参加された方々が非常に協力してくださっており、非常に関心度、協力の意識が高い市だと実感しました。この資料を今後の計画に活かしていくことは当然のこととして、なにかご意見、ご質問があればお願いします。若年層対象ワークショップにご協力いただいた保坂委員にまずご意見をお願いしたいと思います。

保坂委員：市民に対してワークショップを行うと、ごみに関心のある方が集まりますが、今回は授業として行ったので、ごみに関心のない方の割合が多くなっています。ワークショップの前後を含めて計4回授業を行いました。個人的に感想を聞いたところ、「これまでは関心がなかったが、授業によって関心・理解が深まった」とのことでした。学生に対する教育効果が非常に高かったということと同時に、無関心層からの意見を引き出すことができたという点で、良い資料になったと思います。

若い世代はお金に敏感です。普段アンケートに答えてくださるような方は、どちらかというと、生活が安定し、関心の高い層からの意見が多いのですが、女子大生は、「リユースが、ポイントや節約につながる」ことを重視していることが、意見に反映されていると思います。

教科書がごみにつながっていることに関しては、教員としては複雑な思いです。できれば社会に出てもずっと持っておいてほしい教科書もあるのですが、実際に年度末になると学生センターに教科書が落し物として集まってきます。また、古本屋さんに教科書が大量に入荷されます。ただ、もったいないと感じる等、リユースに敏感だということは分かりました。先ほどのアンケート結果でも、若年層の方が、リデュースが大事と思っているという結果がありました。

若い人は時事問題にはなかなか関心を持たないのですが、タレントやキャラクターには非常に関心があります。特にごみの情報を発信するところでは、芸能人やゆるキャラといった発想が多くของกลุ่มから出ていました。市として、なにかひとつでも実現可能な意見があれば反映していただければと思います。

奴田委員：少し気になったのですが、資料 1-1 の P5 について、多くの方が「分別をしている」と回答しているのですが、違った見方をすると、本人が正しく分別をしていると思っていても、間違った分別をしている可能性もあるのではないのでしょうか。この結果を鵜呑みにするのではなく、もう少し研究をする必要があると思います。

久保田委員：実際にごみを収集される方から見て、このアンケート結果は素直に受け止められる内容なのではないでしょうか。

深野会長：アンケート結果では、「きちんと分別している」と「ほぼ分別している」を合わせて 96.4%の方が分別をしていると回答されていますが、市としては、ごみ性状調査等を踏まえて、どのように感じていますか。

大道委員：このアンケート結果を市民等に報告する機会があれば、実際と照らし合わせてみる等、この結果を活かすような形で報告していただければ良いかと思います。とても良くできており、分かりやすい資料だと思います。

久保田委員：「手間である」という回答がけっこう多いようです。

深野会長：「分別している」という回答が多い一方で、「手間である」という回答も多いということですね。

川村次長：収集する側からの話ということで、手元に正確な数字のある資料がないのですが、年間で 2 万件くらいの収集できないごみが、ステーションに出されています。2 万件と聞くと多いように感じられるかもしれませんが、ステーションは市内に 4,400~4,500 箇所あるので、割合としては多くはないと思います。全く問題のないステーションも多くあります。明らかに出不入はいけないと分かっているものをステーションに出している場合は問題ですが、袋に分別して出されているごみについては、それほど間違った分別がされているわけではないと思います。

内海担当課長：分別する意識があっても間違っている人はおられると思いますので、今回出された意見を参考に、分別を間違いやすいものについて、さらに分別が進むように説明会で発信する等の周知をしていきたいと思います。

深野会長：「きちんと分別している」と「ほぼ分別している」の違いがあるのかもしれませんが、それでも非常に高い協力率であると、委員の皆さんも感じておられるかと思います。

食品ロスに関しても高い数字が出ています。食品ロスワークショップに参加された久保田委員、牧田委員、大道委員から、ご意見、ご感想があればお願いします。

大道委員：たくさんの意見が出ていました。若い方もベテランの主婦の方もおられたのですが、「どう

すれば食材を使いきれぬのか」という質問に、「残った食材をスープにする」といったやりとり等がありました。また、「今日のお昼は何を食べたか」という話の際に、「冷蔵庫の中に残っている食材を使ってチャーハンを作った」という話もありました。その他には、「剥かなくて良い皮はそのままにする」、「賞味期限に惑わされない」等、従来の食の伝承というものが行われていれば、食材を使い切ることができるのではないかという意見がありました。賞味期限については、男性の方からも意見がありました。あとは、急に家族が「夕食はいらぬ」となった場合に廃棄してしまう等、非常にたくさんの意見が出ていました。

牧田委員：私は事業者が集まったグループに入っていましたので、「どうしたらお客様の食べ残しが少なくなるか」ということが話題になりました。このアンケート結果でも出ているように、少量メニューをどのように提供していけば良いかという意見が多く出ていました。従来の「お替り自由」のように、「小盛りを希望される場合はおっしゃってください」といったことをメニューに書いてはどうかという意見もありました。また、一番大きな問題だとみんなが感じているのは、パーティーや宴会時の食べ残しが相当多いということでした。ワークショップ時に配布された資料にもドギーバッグの事例が載っていましたので、鎌倉市でドギーバッグを作って推奨してはどうかという意見も出ていました。

久保田委員：若い奥様方は非常に熱心でした。そういった方がこのアンケートの「分別している」に含まれている人たちなのだろうと思いました。ただ、「実際にやっていること」、「やっていないこと」を書き出した際に、私が「キューロ（生ごみ処理機）」のことを書いたら、知らないという人がけっこうおられて意外に思いました。

浅川委員：資料 1-1 の P6、問 8 の回答について、2 つまで回答できることになっていますが、「焼却施設の停止のため」という回答が比較的少ないため、もっと鎌倉市の足元の問題である焼却施設のことは知っていただく必要があると思いました。また、先ほど若年層ワークショップでも、手選別のことを伝えて理解が深まったとのことでしたので、分別ルールだから守るというのは当たり前だが、分別したものがどうなっていくのかといった具体的なことを知っていただくと、協力のされ方もまた変わってくると思います。

深野会長：10 代の方はまずルールを知ることが大事だと思います。20 代、30 代になると徐々に「なぜ分別するのか」という意味が分かってくるのではないかと、この結果から読み取れます。非常に良い資料だと思います。焼却施設のことにに関して、鎌倉市の厳しい現状が知られていないと感じられるとのことですが、事務局から意見はありますか。

内海担当課長：リサイクルしたものが何に変わっていくのかを説明していくことで理解がされていきます。私たちも反省して、「なぜ分別するのか」、「何に変わっていくのか」を説明していくように心がけたいと思います。

牧田委員：キャラクターやゆるキャラについての意見がありましたが、記憶違いでなければ、鎌倉市にもリデュース、リユース、リサイクルのキャラクターがあったと思うのですが、もうなくなってしまったのでしょうか。

安倍職員：キャラクターは今も存在しており、ごみ減量通信などに載せています。今回のパンフレットの表紙にはキャラクターを入れていませんでした。

牧田委員：説明会のときにも着ぐるみ等で登場してもらってはどうか。

深野会長：若年層ワークショップでビジュアルの意見が出ていました。今の世の中はビジュアルを重んじており、それはそれで役割はあると思います。行政も、現実を踏まえていく必要があります。

す。伝え方として、ゆるキャラを使うといったようなことも、今の時代では有効なのではないでしょうか。プレゼンテーション等でも、伝え方で大きく変わるということが実証されていますので、そういったことも考慮して、色々なことが上手く伝われば良いと思います。

久保田委員：資料 1-1 の P26、問 10 で、「地域の取り組みに積極的に参加している」という項目がありますが、参加していない人が圧倒的に多いようです。私も反省して、町内会等で多少なりとも何かやっていきたいと思います。

保坂委員：若年層ワークショップでも出ていた意見ですが、若い人は、実績になるボランティアに関心があります。ボランティアを企画するときは、証明書を作ってあげないと実績にならないので参加してもらえません。今まではそういったボランティアがあまりなかったと思うので、そういう機会を増やしていくのも良いのではないのでしょうか。

深野会長：廃棄物関係のボランティアを呼び掛けるとのことですか。

保坂委員：市でちょっとしたイベントを実施するときに考えていただければと思います。

深野会長：イベント時に、インセンティブのことも考慮して、ボランティアを募集してはどうかという具体的な意見です。

保坂委員：説明会は既に始まってしまっていますが、ごみの分別の仕方を説明するボランティア等、そういった経験を有した学生が増えてくれれば教員として嬉しいです。

深野会長：この資料はクロス集計等も大変良くできており、社会学のようです。1 冊の本になってしまいそうです。分析を今後も続けて、パンフレットやイベント、基本計画に大いに活かしていただきたいと思います。

続いて資料 1-4 から 1-7 について説明を事務局からお願いいたします。

事務局から 3 R の取り組み上位の市町村調査結果、全国の市町村 3 R ・観光ごみ先進事例、県内 19 市における 2 R 推進に関する取り組み状況、一般廃棄物処理基本計画目次案について説明した後、審議を行った。

深野会長：参考事例と計画の目次に関する資料です。アンケート結果等は計画の第 4 節に活かされることです。また、生活排水処理基本計画も合冊で第 3 章に入ります。ご意見や質問があればお願いします。

牧田委員：資料 1-5 の P4、横浜市の事例の中で、「刑事」は「掲示」の誤字だと思いますので修正をお願いします。

深野会長：先進事例なので、最近の取り組みを集められているのだと思いますが、時系列にすると分かることもあります。上手くいかなかった事例もあると思いますので、時系列は長めにとると良いと思います。生ごみはどの自治体も苦労されているようです。他にご意見やご質問はございますか。なければ次に報告事項についてお願いいたします。

報告事項 1 有料化等について

事務局から有料化等についての経過について報告を行った。

深野会長：有料化等についてご説明いただきましたが、ご質問、ご意見はございますか。指定袋は 2 月 16 日からの発売で、一番小さい袋は 5 リットル、一番大きい袋は 40 リットルということです。小さい袋まで作るように配慮いただいたということですね。

谷川担当課長：はい。5リットル、10リットル、20リットル、40リットルの4種類を用意しております。
他市の事例も勘案しました。

大道委員：色はグレーですか。

谷川担当課長：燃やすごみ、燃やさないごみともにグレーです。収集日が違いますので、色が共通であることは問題ないと思っています。

深野会長：説明会は小さい単位で実施されているということでしょうか。

谷川担当課長：これまでは大きい会場がある市内の5箇所で実施していましたが、今回は小学校区単位で、色々な場所で説明会を実施していくことを考えています。

深野会長：他にはありませんか。それでは続いて鎌倉市ごみ焼却施設基本計画についての説明をお願いします。

報告事項 2 鎌倉市ごみ焼却施設基本計画の進捗状況について

事務局から鎌倉市ごみ焼却施設基本計画の進捗状況及び用地検討部会における建設候補地の総評について報告を行った。

深野会長：ありがとうございます。用地についてはごみ焼却施設基本計画に反映されるとのことですが、ご意見、ご質問があればお願いします。

奴田委員：生環審のメンバーの中に、鎌倉市在住の委員は何人おられますか。

遠藤課長：1名おられます。

奴田委員：鎌倉市の人がないのに候補地をどうしていくのが気になります。

遠藤課長：候補地の選定については、候補地の方々にも来ていただき、現地の状況も把握しながら行ってきました。生環審からは4候補地の状態で答申をしていただく予定になっています。生環審も学識の方々ですので、そういった視点からのご意見をいただきたいと思います。

奴田委員：論議をしてみたいです。

遠藤課長：生環審から答申をしていただいた後、報告書の内容を踏まえて、最終的には市で責任を持って候補地の絞込みを行います。生環審で絞込みを行うわけではありません。

牧田委員：答申が出る日程とパブリックコメントの日程について教えてください。

遠藤課長：2月末を目処に答申をいただき、3月末に最終的に市の方で絞込みを行い、ごみ焼却施設基本計画案としてまとめ、4月以降になりますが、パブリックコメントを行っていきたいと考えています。

深野会長：4月以降にパブリックコメントを行う予定とのことですが、他にはよろしいでしょうか。それでは報告事項については以上とします。

その他 1 次回の当審議会の開催日程等について

深野会長：最後に、その他として次回開催日程についてお願いします。

内海課長：3月末までに第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画の素案まで作成したいため、お忙しい中大変恐縮ですが、3月に2回審議会を行いたいと考えております。次回の第11回は、3月2日（月）午後6時から8時まで、822会議室での開催を予定しております。第12回は、3月25日（水）午後2時から4時まで、全員協議会室での開催を予定しています。開催通知は別途送らせていただきます。

石井部長：1月15日に製品プラスチックの回収がスタートいたしました。現在、どのくらいの減量効果

があるのかを確認しながら行っているところですが、当初の想定よりはやや少なめの回収となっています。2月、3月に周知を図っていきたいと考えています。

最後に報告させていただきましたように、新焼却施設の基本計画を、用地を1つに絞り込んで作成していきたいと考えており、ごみ減量のための対応と合わせて、大きな2つのテーマを同時併行で動かしています。今年度と来年度は環境部にとっても大きな年になると思いますので、またお力添えをよろしくお願いいたします。

深野会長：以上で本日予定されていた議題はすべて終了いたしました。これを持ちまして第10回鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会を閉会いたします。ありがとうございました。